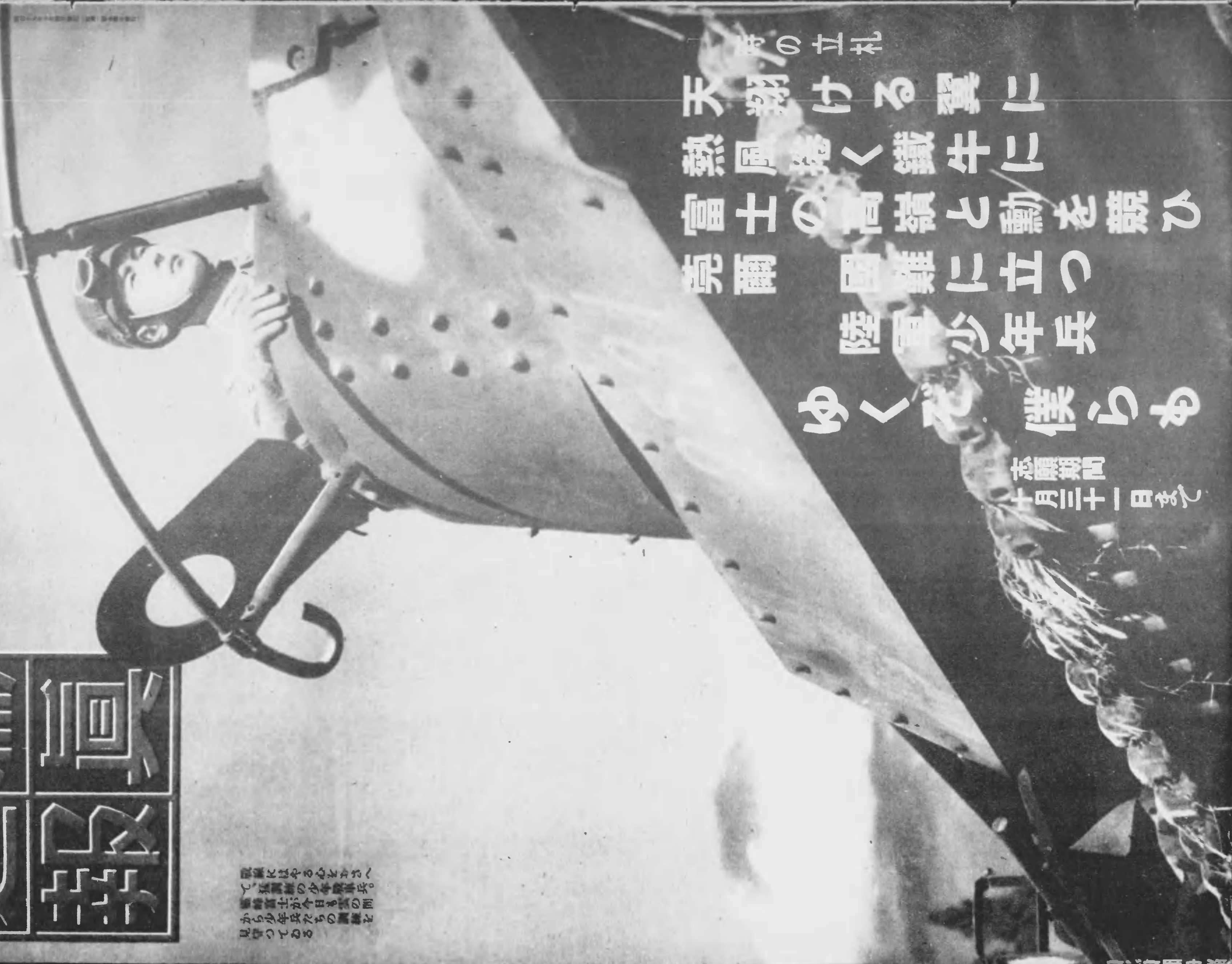


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

情 報 局 編 輯 十 四 日 第 三 一 四 號

真 高 週 報



戦線にはやる心をあつて
て、真高週報の少年陸軍兵。
富士が今日も雲の間
から少年兵たちの訓練を
見守つてゐる

天 羽 ける 翼 に
熱 風 捲 く 鐵 牛 に
富 士 の 高 嶺 と 勳 を 競 ひ
亮 爾 國 難 に 立 つ
陸 軍 少 年 兵
ゆ く で 僕 ら も

志願期間
十月三十一日まで

「ドイツと吾らヨーロッパ今後二千年間の運命はこの一戦に掛かっている」と
 ヒトラー総統は開戦の初頭の一九三九年秋にはつきりと宣言してゐる。今や正に二千年の運命を決する開戦の際にドイツは立つてゐる。ドイツは今や西部戦線ではジークフリート嶺に戦を引寄せ、一方、東部戦線では二ヶ月餘に七百キロ後退して、國境に接近の陣を布いてゐる。開戦以來六年を迎へて、再び開戦當初の戦場に戻つたドイツは、攻め保した兵力とこれまで餘裕を獲てあつ

た國內の青壯人員を動員して、こゝに最終的な決戦を懸かんとしてゐるのであつて、開戦以來最大の危局に直面してゐるのである
 × × ×
 今が一番苦しい時期であることは、ドイツ國民が自身よく知つてゐる。スタヴリンградの連戦以來、内外の電報文々至る難局は差し想像に對するものがある。しかし、盟邦の諸新聞が「民族戦争」と新たに呼んでゐる如く、この難境を神がドイツ民族に與へた試練として、驚愕と立つたドイツの國運こそ、

悲壯の限りである
 しかしながら、徒らに憂ふことも、悲しくともない。戦ひに一進一退があり、起伏があるのは當然であつて、且つ味方の苦しいときは敵もまた苦しいといふことは戦ひの原則である。勝利の中に難局があり、苦戦に勝利がひそんでゐるといふのは、單なる逆説とはかりひききれない。それには黙つて後止まむの氣概が發揮されねばならぬ。さればこそ、ヒトラー総統は

「ドイツ國民が現在経験してゐるこの時期には無数の精神力と決戦力とが必要である。ドイツ民族存亡のこの最大の戦ひに各個人の任務は、勝利のため絶えず闘ひ、且つ働くことである。われらの行動はことごとく如何なる難局にも屈しないといふ原則によつて導かれてゐる」と

設いてゐるが、正にその通りであつて、ハムブルクに對する敵の波状空襲にも對して来たドイツ國民が、小さな同盟國が隊列から離れ、國境に敵が迫つたから、苦しいからといつて、降伏しようなどと考へるものではない。殊に勝利か、滅亡か、生か死かを知りぬいてゐるドイツ國民の戦意は、この苦難にますます昂りこそすれ、決して衰へることはない。敗戦の悲惨な苦しみはドイツ國民が身を以て體驗してゐる。史上空前といはれたさまのヴェルサイユ條約で、ドイツの失つたものは、

土境 海外領地全廃、アルプス、ローレンツラント、モレネー、オイベン、マルメチ三地方(ベルギー)、ダンテラヒ(自由市として獨立)、メーメル(リトアニア)、ザール地方(フランスに割譲)、シエレスウイラヒ(フランスに割譲)、エムメリン(ポーランドに割譲)

引渡した物品 總トン重千六百トン以上の全部、一トトンから千六百トンの間の物品の四分の一、西川船五隻の五分の一、機關車五千輛、軍用トラック五千輛、擧げられた領土と領民地における全金銀財寶、聯合國及び公認諸領土内のドイツ人の全私蓄財寶

などであつて、このために後年二百億マルクが邦債の一般に當るといふ有名なインフレーションの原因となり、文字通り破滅の苦しみを経験した。負けたことはドイツ國民が誰よりもよく知つてゐる。しかも敵は皇者の未來である。現にルーズヴェルトは「日獨が戦争の國境に至らぬ前に交渉をやめても、反響は兩國を占領するまで影響しつゞけよう。第二次大戦ではドイツ領に侵入する前に戦争をやめたから、ドイツは再興した。今度はこそやめる裏手を覚めよ」と地上から抹殺せん野望を露しりしてゐるのだ

× × ×
 絶望な敵の下に敗北となるか、不撓の國運

頑張れよ 勝利は必ず在り



「優秀な一機でも多く」機師養成の女子
 工場は陣線心に働きと奮起
 「千機でも三千機でも、みんな叩き出すよ」女子工場
 は最新型機の生産に邁進防衛の戦力を充ちてゐる



「軍需工場に働かせつけ兵隊の増産に大奮闘を續けてゐるドイツの青年軍

軍備 陸軍十万人、海軍十万人に削減、兵隊の補充、ライプ地方の海軍基地、ヘルゴランド島の防備停止、キール運河以下上川の自由航行

賠償金 千三百三十億マルクとし、年金として三十億マルクと輸出税の二兆金、その他賠償物として輸入の自由と國內における聯合國古軍の全軍、聯合國國境に對するあらゆる年金

などであつて、このために後年二百億マルクが邦債の一般に當るといふ有名なインフレーションの原因となり、文字通り破滅の苦しみを経験した。負けたことはドイツ國民が誰よりもよく知つてゐる。しかも敵は皇者の未來である。現にルーズヴェルトは「日獨が戦争の國境に至らぬ前に交渉をやめても、反響は兩國を占領するまで影響しつゞけよう。第二次大戦ではドイツ領に侵入する前に戦争をやめたから、ドイツは再興した。今度はこそやめる裏手を覚めよ」と地上から抹殺せん野望を露しりしてゐるのだ

を以て勝利を勝ち得るか、道は二つしかない。誇りある民族がどちらを選ぶかはいふまでもない

「國民は祖國の危急に最後の血の一滴まで防衛のため流さなければならぬ。この決死にあらば、征服されるものではない。萬一、猛烈な奮戦の後、たとへば運んで斃れるとも、この氣概は必ずや國民の再生と復活を確保するであらう」

とは、ドイツの兵法家クライゼヴィッツが唱へたところである。ドイツ國民はこの教訓をいま實踐せんとしてゐる。屍を積み、最後の一兵まで、祖國防衛に殉せんとしてゐるのは、昔に國防軍將兵のみではない。武装親衛隊、武装突撃隊にも及んで、東プロイセン地方では十五歳から六十五歳までの男子が戰場から戰場へ、國境の無防備に出勤し、ヒトラー・エーゲンも従來の軍の補助任務から第一線的な配置に就いてゐる。女子にはこれまでは、ナチスの方針として武器を執らせなかつたが、電探探知機、高射砲の觀測の任務に就いてゐる。國民はその全力を盡さず送り出し、あらゆる努力を傾けつくし、斃れても止まぬ氣概をもつて、敵を撃つと誓つてゐるのである



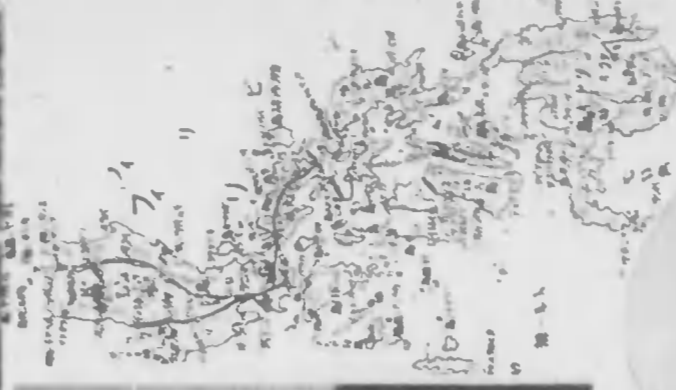
「軍需工場に働かせつけ兵隊の増産に大奮闘を續けてゐるドイツの青年軍

すべてのものを失ひ、さらに身を縛められるのみとなつた國民は猛虎の如く戦ふであらう。しかもドイツ國民には、炎のやうな燃えさかる愛國の至情を抱いてゐる

戦ひは土地を失つても負けではない、後退しても負けではない。負けると思つたときに敗れるのである。しかし、ドイツ國民が敗れずとの信念を堅持し、渾身の力をこめて戦ひぬかんとしてゐる限り勝利は約束される

全員戦死して悠久の大義に生きるわが國の尊い殉難の精神を學ばんとするドイツに、われらは單なる盟邦としての親愛をこえて、血の親愛を感じる
 太平洋岸を洗ふ波はキール軍港にも波うち、東京の空はまたベルリンに通じてゐる
 一見距たること遠き東亞の戦局とヨーロッパの戦局は二にして一つである。驕敵を撃滅する道も一つである。樞軸一心の結盟を艱難にいよ／＼固め、日獨一體となつて、米英粉碎へ邁進せんのみである。勝利はこの鋼鐵の信義の上に築かれるのだ

戦参の 米英撃滅の 第一線に立つ



千八百萬比島民衆を率いて立つラウレル大統領



断じて侵ませじ比島千八百萬の民衆は憤怒に燃えてゐる



九月二十三日午前十時、フィリピン大統領ラウレル氏は、フィリピンが米國及び英國と戦闘状態に入る旨を宣言し、フィリピンは遂に参戦した。大東亞戦争勃發以來二年九ヶ月、大東亞の戦局は日毎に苛烈の度を増し正に決戦の機を迎へんとする時、千八百萬フィリピン國民は、その光輝ある獨立を擁護し、祖國の本土を防衛するため、驟然頌を振つて起つたのである

昨年の秋光榮ある獨立を具現して以來、フィリピンはラウレル大統領を隨頭に内は着々内政を整へ、外はわが國始め大東亞の諸國と緊密に協力して大なる建設の歩みを續けてきたが、今や驟然と敵米英撃滅の第一線に立つた。ラウレル大統領はその電報の布告において

『…共和國大統領は全世界の諸國民に對し親睦と融和とを訴へ特に米國に對しては我等の國土に軍作戦を再び繰返し、比島に災害と破壊を及ぼさざるやう請願せり、かゝる請願にも拘はらず米國並びに英國は比島の若干地域を空より侵襲し、共和國の領土保全を侵害し、さらに比島市民を殺傷、比島人財産を破壊せしめたり、今や比島はその獨立と領土保全を擁護せざるを得ず』

と参戦の理由を明らかにし、また『…現在我等が経験し、また近き將來豫ることあるべき辛酸にも拘はらず我等固き團結の下に比島の自由と獨立を擁護せんとするも

國を守る責任は、僕らの双肩にある。誓つて積年のうちみを償はず、米らば、米れと日夜訓練に勵む比島青年

祖國防衛に比島民衆が立上るや、わが比島氣運の輝耀は天國の輝を帯びて、日出一線の完全防衛なる

のなり』とあくまで米英撃滅の決意をのべてゐるかくて大東亞の諸國諸民族は悉く大和團結相携へて東亞解放の聖戦に従事することになつた。三年前、誰がかゝる盛事を豫知し得たであらうか。誰を決して起つた東亞十億の民族が、敵の東亞再侵略を許さず、必ずやこれ

撃滅するは火を晴るより明らかであり、東亞の復興は期して待つべきものがある。フィリピンはその全力あけて敵米英を撃ち名譽ある獨立を維持してその國土を衛するであらう。われらもあらゆる協力を援助をつくり、相携へて聖戦を完遂し、大東亞の建設に邁進することを固く誓ふものである



少年兵！

空の決戦へ

か、一日に中すことは出来ないが、要するに作戦に基いて主体的に指揮官の思ふやうに飛行機に作戦を執行することによる。軍に飛行機と人員だけがあつても駄目なのである。一切の航空関係の業務の総合した能力を集中發揮して初めて効果があるのである。

軍に空中勤務者だけがあつても近代の大規模な作戦を執行することは出来ない。通信が設備して多量の飛行機が日常に完全に出勤し得る状態になければならぬ。その空中勤務者も通信に任ずる者もまた通信に任ずる者すべては人である。しかも軍に人を集めることが出来るものではない。その代りに特別の教育と徹底した訓練が必要である。

さて少年兵！ 空中勤務者は先づこんな嚴重な身体検査があるから、自分は國家の勤役に立たぬと思つたら大きな誤りである。恐ろしいが如き熱血の愛國の精神があれば通信に準備に十分力を盡し直ちに明日の航空作戦に参加することが出来るのである。

日本の運命を大運に決する時は今だ。それも航空決戦によつて決するのである。空の戦ひは常に青少年諸君の双肩にかゝつてゐる。奮起せよ青少年諸君！ 決戦の大空へ進み出せよ！ われらと共に大空の戦艦に乗り込んで勝つて来ようではないか

陸軍航空部 佐藤 正光



るれ生ら自は神解り高節 てつなと魂りなと血のちちた意者は練調正の目達 るせさ習修々々 言教編編飛行機 ばて校飛行機軍隊各階へこ が備軍動出あさ

- 少年飛行兵 陸軍航空部
- 一、少年飛行兵 陸軍航空部
- 二、少年飛行兵 陸軍航空部
- 三、少年飛行兵 陸軍航空部
- 四、少年飛行兵 陸軍航空部
- 五、少年飛行兵 陸軍航空部
- 六、少年飛行兵 陸軍航空部



週刊



るむてせか舞を群いし々者に念信の通信打一ひ思をささ重の務任きべるなと目日の機行飛 は兵信通年少の (1000) 校軍信通空軍隊各階へけうで上地を練訓の機知探向方上機



戦後北茨城を語る町づくり

〇 来てからまだ日の浅い
開いたヨイヨイたちも戦死
なされた方々のお墓を掃
除します

「兵隊さんよ、ありがたう」元気な歌聲が教室の窓から流れてくる。初等科の生徒だ。校庭には秋の空がさんさんと降りそそいで、爽やかな風がみちみちしている。学校には何か大きな活気が感じられる。

むべなるかな。埼玉県の羽生国民学校は、軍人援護の優良校として軍事保健院から表彰された模範校だ。この八月、疎開してきたヨイヨイたちもたくさんまじって力を賜せ、戦後の兵隊の家を護らうと、健気な努力をかまわている。校長先生を中心として、初等科の一年生までしかいないこの立派な心掛けが模範校としての校風を自づとつくつてゐる。

いま同校の軍人援護活動を二三紹介してみると、まづ児童たちが汗して耕してゐる慰霊園がある。季節の初物は、慰霊園の墓前に供へられて賑やかな奉奠式が行はれる。次いで慰霊に供へられた新鮮な果物や野菜は、早速ヨイヨイたちが手分けして警れの家にお届けし、自分たちもつましく焼香して慰霊に供へる。

班長を先頭に慰霊と除塵を組んで登校するヨイヨイたちが、警れの家にさしかると、「頭をうつ

〇 「僕たちが真心こめて作った野菜です。」
慰霊の墓前に打響へながら、慰霊園に正座するヨイヨイたち

〇 慰霊園の拜殿にお供へするため慰霊園のいも畑に「おや、こんなに大きいのがあるぞ」



倒米茶
守り

軍人強化運動 八月一日三月十

と、びりつとした敬禮をしてゐるのも、深持のよい風情だ。班長は、器具や作器や衣類などの修繕ものを留守宅や遺族家からおあつかりしては、学校の工作室や裁縫室で班員と協力して修繕奉仕を行ふ。またヨイヨイたちの手になつた標識やポスターが、よきよき町の場所に貼り出されては、町民の活気を新たにしている。大人たちが、世負ふな子にとさゝやいてゐるのも微笑ましい。幼い力を賜せ、細い肩を組みながら、ヨイヨイたちが町の軍人援護に果してゐる力は決して少くないのだ。

〇 通學の路すがら陣ヶ警れの家とさしかると、班員は此調をとる「頭をうつ」



〇 「すみません、この機織、まなほして下さい」
ヨイヨイの衣服の修繕を受持つてゐます。 〇 は工作の時間がありますから、まなほしてお届けします」



